

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	瓦木中学校校舎改築他工事	階数	地上4F
建設地	西宮市薬師町192番	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用、第3種高度地区	平均居住人員	1,032 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2021年12月6日
敷地面積	22,067 m ²	作成者	浪江明弘
建築面積	3,733 m ²	確認日	2021年12月6日
延床面積	10,207 m ²	確認者	浪江明弘



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 Q1(室内環境)からLR3(敷地外環境)までの6つの項目をバランスよく向上させ、総合的に環境性能の高い建築物となるよう配慮している。		
Q1 室内環境 空調室内機のセンシング機能、昼光率の確保、F☆☆☆☆建材の採用など室内環境の向上に配慮している。	Q2 サービス性能 維持管理に配慮した材料を使用したり機能を確保するとともに、耐用年数の長い配管材料や耐震性の高い配管支持方法を採用し耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 屋上緑化や道路境界を中心に中高木を植樹するなど、敷地内にじゅうぶんな緑地を確保し、室外環境に配慮している。
LR1 エネルギー 太陽光発電、高効率ガスヒートポンプエアコン、LED照明、潜熱回収型ガス給湯器等を導入し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水水栓、節水便器やリサイクル建材を導入し省資源に配慮するとともに、地球温暖化係数、オゾン破壊係数の小さい断熱材の使用にも取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 光害の抑制など敷地の周辺の環境にも配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される